

チョウのふしぎ

～ずいぶんたくさんチョウだね！～

チョウのふしぎのコーナーには、いろいろなテーマに分けた展示をしています。チョウはそれだけ種類が多く、見どころがたくさんある生物なのです。

？ チョウとガはどこがちがうの？

- 「チョウとガはどこが違うの」という質問をよく受けます。
- ・はねを閉じて止まるのが「チョウ」、開いて止まるのが「ガ」
 - ・「チョウ」のはねはきれい、「ガ」はきたない
 - ・屋間に活動するのが「チョウ」、夜に活動するのが「ガ」
 - ・触角がこん棒状なのが「チョウ」、くし状なのが「ガ」



モンシロチョウ



ヒオドシチョウ

このようなことが言われることがありますが、全てにおいて例外がたくさんあります。結局、「チョウ」と「ガ」は「鱗翅目（チョウ目ともいう）」という同じ仲間であり、区別することはできません。

日本では、「タテハチョウ科」「アゲハチョウ科」「シロチョウ科」「セセリチョウ科」「シジミチョウ科」の5つの「科」に当てはまる「鱗翅目」をチョウと呼び、それ以外の「科」をガと呼んでいます。

？ これが同じチョウ？こんなにちがう表と裏

チョウは種類が多く、種類ごとに特徴があります。例えば表も裏も同じような模様のもと、全く異なる模様のものであります。表と裏で模様の違うチョウは、裏が目立たず表が目立つものが多いようです。その理由の1つは、天敵である鳥との関係にあります。鳥が近づくとはねを閉じ目立たないようにしていると考えられています。模型で確かめてみましょう。



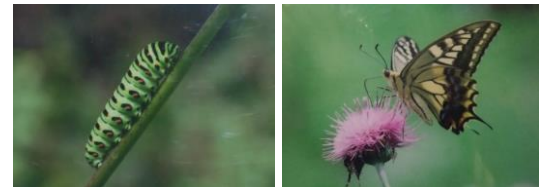
表

裏

クジャクチョウ

？ どの幼虫がどの成虫になるの？

すべてのチョウは一生のうちに体のつくりが大きく変わり「卵→幼虫→蛹→成虫」の時期があります。これを完全変態といいます。「幼虫」の時期には植物を食べるものがほとんどですが、食べることのできる植物は種類ごとに決まっています。これを「食草」「食樹」といいます。チョウの幼虫を探すには、その「食草」「食樹」を知ることが重要です。



キアゲハの幼虫と成虫

京都でよく見られるチョウ

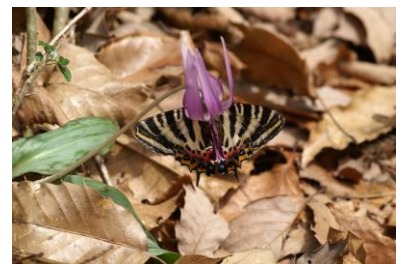
日本にすむ約250種類のチョウのうち、約100種類を京都で観察することができます。ところがアゲハチョウやモンシロチョウ、ツマグロヒョウモンなどのようによく見かけるチョウと、ギフチョウやオオムラサキなどのようにめったに見ることのできないチョウがいます。

よく見かけるチョウは、幼虫の餌となる植物が、街中でも多く見られるもの、1年に何回も「卵→幼虫→蛹→成虫」を繰り返すものが多いようです。一方、めったに見ることのできないチョウは、食草が限られた場所にしか生えていないもの、1年に1回しか成虫が現れないなどの特徴があります。

探究・研究コーナー！ 調べてみよう！

次の4点について実際に調べて、研究してみましょう。

- ・オスとメスで模様が違うチョウと、ほとんど変わらないチョウがいます。種類ごとに調べてみましょう。
- ・1年に1回「卵→幼虫→蛹→成虫」となるチョウと何回も繰り返すチョウがいます。種類ごとに調べてみましょう。
- ・越冬するときは、「卵」「幼虫」「蛹」「成虫」のどの状態なのか、調べてみましょう。
- ・幼虫が食べることのできる植物（食草・食樹）について、調べてみましょう。



ギフチョウ